



南アルプス市立 白根飯野小学校 学校だより  
学校教育目標  
「郷土を愛し、たくましく生きぬく子ども」

2月号  
令和4年2月1日  
編集 校長 岡こずえ

[www.iino.m-alps.ed.jp/](http://www.iino.m-alps.ed.jp/) 白根飯野小学校学校ホームページにも毎月掲載しています

## 「大変（たいへん）」と書いて、「遣り甲斐（やりがい）」と読む…

先月26日、長崎県知事から感染症拡大防止への臨時特別協力要請が発出されたことを受け、本日予定されていた新入生保護者説明会を急遽延期することになりました。そして、こうしている今も、オミクロン株の感染が急速に拡大し、連日緊迫した状況が続いています。

さて、早いもので、今日から2月。今年度も残すところ後2か月ほどになりました。この一年を振り返ってみると、実に多くのことが様変わりしました。今年度は、GIGAスクール元年と言われるように、全国的にICTを活用する学校が増え、本校においても、研修の成果を教職員同士で情報交換し、様々な活用方法を試行錯誤しながら取り組んでいます。昨年度までは、どこかのクラスの教員がICTを活用した授業を行っているのを見かけたという状態でしたが、今では、毎日必ずどこかのクラスで、児童一人ひとりが自分用のタブレット端末に向かい、その操作スキルも日増しに高まってきている様子が見えます。

コロナ禍での教育活動は大変です。大変ですが、私自身、その大変さを「遣り甲斐」と感じるようになり、「大きく変わる」と考えられるようにもなってきました。年度当初のPTA総会をはじめ、修学旅行や運動会、児童発表会などの学校行事、各学年での校外学習、講師を招聘しての出前授業、授業参観、学年部会等、当初の計画通りにできたことの方が少なく、その度に様々な工夫を考え、苦渋の判断を迫られることもありました。そんな苦境にあっても、子供たちは元気に逞しく成長しています。

ある日、中休みにグラウンドに出てみると、「校長先生も一緒にやろう！」と鬼ごっこに誘われたので、仲間に入れてもらいました。冬の寒さなど関係なく、無邪気で明るく元気な子どもたちに、心が癒されます。様々な活動を制限されても、毎日の授業を頑張り、きちんと学校生活を送り、心身ともに着実に成長している本校の児童は、本当に素晴らしいと感じます。これからも全ての子どもたちのために、終業式のゴールを目指して一生懸命頑張っていきます。



# 思いやり、創造力、すこやかな体を持ち、未来を担う 白根こまっ子

いよいよ令和4年4月から「小中一貫校 南アルプス市立白根飯野小学校」がスタートします。「思いやり、創造力、すこやかな体を持ち、未来を担う 白根こまっ子」は、白根巨摩中学校区の小中学校共通の「めざす生徒像・児童像」です。今後、小中一貫教育を推進することで、小学校と中学校との縦のつながりが強化され、小中間のギャップが小さくなり、これまで以上に地域と一体となって未来を創る子供たちの育成を図っていくことが期待できます。



☆白根巨摩中学校での取組を高学年でも実践しています

はきものをそろえると 心もそろろう  
心がそろろうと はきものがそろろう  
ぬぐときにそろえておくと  
はくときに心がみだれない  
だれかが みだしておいたら  
だまってそろえておいてあげよう  
そうすればきっと  
世の中の人の心もそろおうでしょう  
藤本ふじもと 幸邦こうほう(長野県円福寺住職)

以前、学校だよりでもお知らせしましたが、南アルプス市小中一貫教育推進協議会は、前白根巨摩中学校校長の芦澤秀幸氏を会長とし、市教育委員会及び地域関係者、有識者、各校前PTA会長、各小中学校長の11名で組織されています。これまでも協議会の委員の皆様からご意見を伺いながら、学習・生活研究部会、行事・交流研究部会の2つの部会に分かれて検討を重ねてきました。尚、教育課程の概要版は、今年度中に完成する予定です。

## 小中一貫教育とは…

【PTA 総会資料より一部抜粋】

小学校と中学校が、独立したまま9年間の教育を一つながりのものとして進めていく教育の在り方です。私立学校では一か所の敷地内で、ほとんど一つの学校のような形で行っているところもありますが、本市の場合は、小学校と中学校は別々の敷地でこれまで同様の教育を進めながら、様々な面でのつながりを強めて9年間の一貫化した教育を行っていきます（一貫化された小中学校では、目指す子供像と教育課程が一本化されます）。ですから、見た目上はこれまでとほとんど変わることはありませんが、小学校から中学校へのスムーズな橋渡しが可能になっていきます。



## = 小中一貫教育のメリット =

- ① よりわかりやすい学習が展開される。
- ② 小中間のギャップがなくなり、生徒指導上の課題が軽減される。
- ③ 9年間で子供を育てるという教職員の意識が生まれる（中長期的な視点で教育が行われる）。

## = 具体的には =

- ◆ 「目指す子供像」を統一して、共通の目標に向かって教育を進めます。
- ◆ 授業の進め方や方法を統一して、中学校への円滑な接続を目指します。
- ◆ 教職員が交流をして、それぞれの学校と児童生徒についての理解を深めます。
- ◆ 教育課程を一本化して、効果的で効率的な教育を進めます。
- ◆ 行事などを通して児童と生徒の交流を促進します。(※)

※新型コロナウイルス感染症の状況を見ながら実施します。

